令和	6	年度事業 事後評価(決算)	事務事業マネジメントシート	令和7年8月 作成
11 J.H	U	十尺于木 于区叶叫(人开/	・ 宇切 宇木 ト ヤングンドン ・ド	744/40万 IFA

I	事業番号	事務事業	名	林道玖島	川末紀	泉整備事業	ţ		所	管課	名	廷	設部施設整備課	所属長名	古和 克司
		方向性	1	くらしを守	る				係・	ブルー	プ名	工務	第2係		
		重点施策	2	移動しや	すく便	利なまちを	つくる		根	拠法令	等	森林	法、国有林・広島県・	廿日市市の	各森林計画書
		施策方針	2	幹線道路	体系0)整備			基本	事業					
ľ	7 M 1 0	会計	01	款	05	項	02	目	02	事業1	事業2	経·臨	予	算上の事業	:名
ı	予算科目	一般会詞	it	農林水産	業費	林業費	ŧ	林業振興費	ŧ	005	53	臨			

1 事務事業の概要

①事業期間	②事業内容(事業概要を簡潔に記載。期間限定複数年度は全体の事業計画を記載)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
	廿日市地域と佐伯地域を結ぶ当路線を整備することにより、災害時ネット ワーク道路としての機能、さらには安全性の向上を図る。	林業産業及び山村地域の活性化を図るととも に、道路ネットワークを形成することで、災害時
☑ 期間限定複数年度	【事業概要】 整備延長 L=2, 400m 幅員 W=6. 5m	の防災機能を確保するため、平成29年度より 事業着手した。
□ 単年度のみ	令和6年度は、引き続き開設工事を行った。	

主な活動内容		活動	指標(活動の規模)	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度
設計業務(H29~)	\rightarrow	ア	 設計進捗率(事業費換算)	%	目標	90	92	94	96	98
					実績	90	90	90		
用地取得·立木補償((H30~)	\rightarrow	1	用地取得率(事業費換算)	%	目標	100	100	100	100	100
					実績	98	98	98		
開設工事(H30~)	\rightarrow	ゥ	工事進捗率(事業費換算)	%	目標	30	40	50	60	70
					実績	35	41	49		
対象(誰、何を対象にしているのか)		対象	指標(対象の規模)	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年月
		7	关吸引中来数		見込	-	-	_	_	_
	\rightarrow	,	道路利用者数	^	実績			_		
道路利用者	\rightarrow	1		1	見込					
坦 姆利用名		1		人	実績					
	\rightarrow	ゥ			見込					
					実績					
意図(対象をどのような状態にしたいのか	.)	計田	指標(意図の達成度)	出上	区分	4 左 莊	c 左 庄	6 年度	7 左 庄	8 年度
息凶(対象をとのような仏態にしたいのか	•)	八未	:拍標 (息凶の達成皮 <i>)</i> 	甲亚	日標	4 年度 40	5 年度 45	50	7 年度 55	60 60
	\rightarrow	ア	整備率	%	実績	35	41	49		
					日標	33	71	73		
林道を完成させる	\rightarrow	1		ı	口信					

が足され場でせる

目標 ゥ 5 年度 施策の成果指標 単位 区分 4 年度 6 年度 7 年度 8 年度 77.5 77.5 78.0 -----78.0 地域間の移動が円滑にできると思う 目標 ア % 市民の割合 実績 67.5 60.3 64.8 目標

実績

都市間(広島市や大竹市など)や地域間 (廿日市・佐伯・吉和・大野・宮島地域) をスムーズに移動できる

3 事務事業の予算・コスト概要

結果(結びつく施策の意図は何か)

	年度	令和3年度決算	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算	前年度比	令和7年度(予算)
Ę	事業費(A) (円)	211,238,220	149,660,500	195,213,700	231,299,200	36,085,500	203,500,000
	国庫支出金					0	0
財	県支出金					0	0
源内	市債	180,100,000	134,600,000	175,600,000	208,100,000	32,500,000	183,100,000
訳	その他特財					0	0
	一般財源	31,138,220	15,060,500	19,613,700	23,199,200	3,585,500	20,400,000
業務	務延べ時間 (時間)	949	949	949	949	0	
	人件費(B)(円)	4,166,000	4,048,000	4,145,000	4,208,000	63,000	0
 	ータルコスト(A+B)	215,404,220	153,708,500	199,358,700	235,507,200	36,148,500	203,500,000
	主な	は支出項目	令和	日6年度(決算)		備考	
委託	料			495,000 円			
工事	請負費		23	80,804,200 円			
補償	.費			0 円			

事業番号	事務事業名	林道玖島川末線整備事業	所管課名	建設部施設整備課
------	-------	-------------	------	----------

4 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令 等)はどう変化しているか。開始時期あるいは5年 前と比べてどう変わったのか。	② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯	③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか。
	可能となったことに伴い、今後の佐伯地域内の工事については、過疎債を利用する。	山林所有者からは、間伐等、森林資源を管理するために早期の完成を望まれており、佐伯地区の市民からは地域間交流、災害時のネットワーク道路として、早期の完成を望まれている。

5 事業評価(令和 6 年度決算の評価)

_	P未们四个1740	** H II=/	
	①政策体系との整合性(この事	事務事業の	目的は市の政策体系に結びついているか。意図することが結果に結びついているか。)
	□ 見直し余地がある	理由	第6次総合計画における「幹線道路体系の整備」として施策方針に位置付けられており、安全性、利便性
目	☑ 結びついている	説明	の向上に貢献している。
的	②市が関与する妥当性(この事業	は市が行わ	なければならないものか。税金を投入して行うべき事業か。住民や地域民間等に任せることはできないか。)
妥当性	□ 見直し余地がある	理由	林道管理者である市が実施すべき事業であり適切である。
評	☑ 妥当である	説明	
価	③対象・意図の妥当性(事務事	葉の現状 かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かんかん かん	や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか。)
	□ 見直し余地がある	理由	 当路線の整備により、災害時のダブルネットワークを構築できるようになり、安全性の向上を図るため、早
	☑ 適切である	説明	期に整備を進める必要がある。
	④成果の向上余地(成果向上の	の余地はな	いか。成果を向上させる有効な手段はないか。何が原因で成果が向上しないのか。)
	□ 向上余地がある	理由	早期の事業完了により、成果の向上が図られる。
	✔ 目標水準に達している	説明	十分の事業元子により、成末の円工が囚うれる。
有効	⑤廃止・休止の成果への影響	(事務事業	を廃止・休止した場合の影響の有無は。目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか。)
性	□ 影響がない	理由	 地域間を結ぶ災害時ネットワーク道路としての機能、さらには安全性の向上を図る上で、この事業以外は
評価	✓ 影響がある	説明	ない。
	⑥類似事業との統合や連携による改善	善余地(類似෧	事業(市の事業に限らない)はないか。類似事業との統合や連携によって成果をより向上させることはできないか。)
	□ 改善余地がある	理由	他に代替え道路の候補路線は無く、改善の余地はない。
	☑ 改善余地がない	説明	
	⑦事業費の削減余地(成果を	下げずに仕	様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか。)
効	□ 削減余地がある	理由	 林道管理者である市が実施すべき事業である。事業は適切であり、コスト縮減の余地はない。
率性	☑ 削減余地がない	説明	
評	⑧人件費(延べ業務時間)の削	減余地(瓦	は果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか。)
価	□ 削減余地がある	理由	 必要最小限の人員により、事務を行っており削減の余地はない。
	☑ 削減余地がない	説明	必安政小阪の八員により、事物で11万(60つ円順の元正はない。
公平	⑨受益機会・費用負担の適正化弁	地(事業内	容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか。受益者負担は公平・公正となっているか。)
性	□ 見直し余地がある	理由	災害時ダブルネットワーク路線を構築するため、受益の機会は公平・公正である。
評価	☑ 公平・公正である	説明	火百吋メフルヤッドフーフ町砂で博来するため、文重の依玄は五十・五正でめる。

0 7	果評価の総	括と	ラ俊の	カ門1	<u> </u>									
①上	記の評価結果	₹						②全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根	拠					
Α	目的妥当性		~	適切]	見直しの余地有り							
В	有効性		✓	適切]	改善の余地有り	森林の適切な整備保全を図り、林業生産の低コストルカストルストリカスを発力するため、効果的な林内路網を形成するとと						
С	効率性		✓	適切]	改善の余地有り	道路としての機能、さらには安全性の向上を図る上である市が実施すべき事業であるため現行どおり推定			は必要	そであり、	林道管	理者
D	公平性		✓	適切]	見直しの余地有り	「このる川が美肥すべき事業でのるため近1」このが推立	ድ ሃ ኄ	10				
③今	後の事業の方	5向性	生(改革	改善	案)•••*	复数	效選択可		4)改革	直改善多	案による	る成果・コス	トの期待	勃果
	拡充	V	現状維	掛				今後の改革改善案						
	目的再設定		改善				切な整備保全及 する必要がある。	び、災害時ネットワークの強化の観点からも早期に供				コス	٠,	
	休止·廃止		完了			_						削減維	寺増加	1
<u> </u>	 	-15-1		- 6T N	L. A. b. ED		-				向上			
(5)改.	革改善案を実	施す	る上で	で解決	すべき説		<u> </u>			成果	維持	С	'	
林道(の効果を発揮	する	には、	林道排	妾続道路	ξ σ.)県道虫道廿日市	「線の整備が必要である。	()		低下址、完	了の場合は	‡記入不] 要)

													=		
ı	事業番号	事務事業	名	熊ヶ浦鯛。	/原縛	整備事業			所	f管課	名	延	建設部施設整備課	所属長名	古和 克司
		方向性	1	くらしを守	る				係・	ブルー	-プ名	工務	第1係		
		重点施策	2	移動しやす	けく便	利なまちを	つくる		根	拠法令	等	道路	法、都市計画法		
		施策方針	2	幹線道路	体系の	の整備			基本事業						
	7 M 1.1 D	会計	01	款	07	項	目	02	事業1	事業2	経·臨	経·臨 予算上の事業名			
ı	予算科目	一般会詞	it	土木劉	ŧ	道路橋り。	ょう費	道路橋りょう新設改	 良費	002	53	臨	道路整備事業(政策)	

1 事務事業の概要

①事業期間	②事業内容(事業概要を簡潔に記載。期間限定複数年度は全体の事業計画を記載)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
□ 単年度繰返し	大野地域の市街地を南北に横断する主要な道路である当路線を整備する ことにより、交通の円滑化、利用者の利便性、安全性の向上を図る。	当地域を南北に連絡する市道早時鯛ノ原線は、通学路に指定されながら幅員が狭小で、安全な歩道空
(平成26 年度~ ^{令和8} 年度)	整備延長:約540m(内橋梁部:48.5m) 幅員:10.5m(車道:7.0m、歩道3.5m)	間が確保されていない状況であり、さらには、JR山陽本線と平面交差となっていることから安全・安心な通学路の確保と南北アクセスの機能強化が課題となっている。これらの解消のため、平成26年度より事
	※全体延長: 1, 040m 令和6年度は道路改良工事を行った。	業に着手した。

			⁾ m 良工事を行った。				手した。	J • > 1, T + 1, T • > 1.	-07(170/20	1207
2 事務事業の対象・意図・活動・成果指	標					•				
主な活動内容		活動	指標(活動の規模)	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度
設計業務(H26~R1)	\rightarrow	ア	設計進捗率(事業費換算)	%	目標 実績	100 100	100 100	100 100	100	100
用地取得(H30~R2)	\rightarrow	1	用地取得率(事業費換算)	%	目標実績	100	100	100 100	100	100
道路工事(R2~)	\rightarrow	ゥ	工事進捗率(事業費換算)	%	目標実績	27	45 29	62	79	
対象(誰、何を対象にしているのか)		計争	た煙(対象の担構)	単位	区八	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度
対象(証、何を対象にしているのか)		刈多	指標(対象の規模) I	里世	見込	4 年度	3 年度	6 年度	/ 平皮	8 年 5
	\rightarrow	ア	道路利用者数	-	実績					
道路利用者	\rightarrow	1			見込 実績					
	\rightarrow	ゥ			見込実績					
			I		JC13C					
意図(対象をどのような状態にしたいのか)		成果	指標(意図の達成度)	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度
	\rightarrow	ア	整備率	%	目標 実績	43 38	56 47	70 57	83	100
道路を完成させ、利用者の安全性の向 上を図る	\rightarrow	1			目標実績					
	\rightarrow	ゥ			目標実績					
					大限					
結果(結びつく施策の意図は何か)		施策	の成果指標	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度
都市間(広島市や大竹市など)や地域間	\rightarrow	ア	地域間の移動が円滑にできると思う 市民の割合	%	目標実績	77.5 67.5	77.5 64.8	78.0 60.3	78.0	
(廿日市・佐伯・吉和・大野・宮島地域) をスムーズに移動できる	\rightarrow	1			目標					

3 ₹	3 事務事業の予算・コスト献要												
	年度	令和3年度決算	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算	前年度比	令和7年度(予算)						
1	事業費(A) (円)	178,682,330	161,368,600	110,265,807	95,177,500	-15,088,307	172,200,000						
	国庫支出金	95,272,000	86,952,000	53,664,000	50,626,840	-3,037,160	88,054,560						
財	県支出金					0							
源内	市債	70,100,000	73,800,000	39,400,000	37,200,000	-2,200,000	64,700,000						
訳	その他特財					0							
	一般財源	13,310,330	616,600	17,201,807	7,350,660	-9,851,147	19,445,440						
業務	務延べ時間 (時間)	928	838	572	494	-78							
	人件費(B)(円)	4,074,000	3,574,000	2,498,000	2,189,000	0							
ŀ	ータルコスト(A+B)	182,756,330	164,942,600	112,763,807	97,366,500	-15,397,307	172,200,000						
	主な	ま支出項目	令和	和6年度(決算)	備考								
委託	料			495,000 円									
工事	請負費		ę	94,682,500 円									
補償	·費			0 円									
				円									

事業番号	事務事業名	熊ヶ浦鯛ノ原線整備事業	所管課名	建設部施設整備課
------	-------	-------------	------	----------

4 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令 等)はどう変化しているか。開始時期あるいは5年 前と比べてどう変わったのか。	③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか。
周辺の住宅地の開発等により交通量や歩行者の 通行量が増加したため、整備要望が高まってい る。	 安全な通学路確保のため、早期完成の要望が強い。

5 事業評価(令和 6 年度決算の評価)

	F未们四个1740	** H						
	①政策体系との整合性(この事	事務事業の	目的は市の政策体系に結びついているか。意図することが結果に結びついているか。)					
	□ 見直し余地がある	理由	 第6次総合計画における「幹線道路体系の整備」として施策方針に位置付けられており、安全性、利便性の					
目	☑ 結びついている	説明	向上に貢献している。					
的买	②市が関与する妥当性(この事業	は市が行わ	なければならないものか。税金を投入して行うべき事業か。住民や地域民間等に任せることはできないか。)					
妥当性評	□ 見直し余地がある	理由	 道路管理者である市が実施すべき事業であり適切である。					
	☑ 妥当である	説明	但時代在代でのの同が大心が、です来でのが過ぎてのも。					
価	③対象・意図の妥当性(事務事	業の現状	や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか。)					
	□ 見直し余地がある	理由	 当路線の整備により、踏切を利用しないで南北を行き来できるようになり児童の安全な通学路及び日常生					
	☑ 適切である	説明	活の安全性の向上を図るため、早期に整備を進める必要がある。					
	④成果の向上余地(成果向上)	の余地はな	いか。成果を向上させる有効な手段はないか。何が原因で成果が向上しないのか。)					
	□ 向上余地がある	理由	早期の事業完了により、成果の向上が図られる。					
	✔ 目標水準に達している	説明	十分の事業元子により、成末の円工が囚うれる。					
有効	⑤廃止・休止の成果への影響	(事務事業	を廃止・休止した場合の影響の有無は。目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか。)					
性	□ 影響がない	理由	 近隣に位置する大野東小学校、大野東中学校の通学路は、幅員狭小で安全な歩行空間が確保されてい					
評価	✓ 影響がある	説明	ない状況であり、安全・安心な通学路の整備を図るにはこの事業以外ない。					
	⑥類似事業との統合や連携による改善余地(類似事業(市の事業に限らない)はないか。類似事業との統合や連携によって成果をより向上させることはできないか。)							
	□ 改善余地がある	理由	 事前の交通量調査など調査を行い必要最低限な道路構造で適切に設計しており、改善の余地はない。					
	☑ 改善余地がない	説明	事前の人種里剛直なに剛直と刊の必要取得限な過過時度で過過に配用して35%、以音の小心はない。					
	⑦事業費の削減余地(成果を	下げずに仕	様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか。)					
効	□ 削減余地がある	理由	 事業は適切であり、コスト縮減の余地はない。					
率性	☑ 削減余地がない	説明	ず末は処勢でのが、コハー間がグンスをはなび、。					
評	⑧人件費(延べ業務時間)の削	減余地(瓦	は果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか。)					
価	□ 削減余地がある	理由	 必要最小限の人員により、事務を行っており削減の余地はない。					
	☑ 削減余地がない	説明	必要以小阪の八貝により、〒4万で11 フトのフロッパンボルドはない。					
公平	⑨受益機会・費用負担の適正化余	₹地(事業内	容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか。受益者負担は公平・公正となっているか。)					
性	□ 見直し余地がある	理由	当路線の整備により、JR山陽本線を立体交差で国道2号へアクセスすることができ、道路ネットワークの強化が図られるため、受益の機会は公平・公正である。					
評価	☑ 公平・公正である	説明						

6 事業評価の総括と今後の方向性

6 事業評価	・ 事業評価の総括と今後の方向性												
①上記の評	西結果				②全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根	拠							
A 目的到	当性	適切		見直しの余地有り									
B 有効性	✓	適切		改善の余地有り	 幹線道路体系の整備として施策方針に位置付けられ	目的妥当性のある事業である。							
C 効率性	. ✓	適切		改善の余地有り	用地買収について完了しており、道路改良工事を行っている。								
D 公平f	✓	適切		見直しの余地有り									
③今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可								④改革改善案による成果・コストの期待効果					
□拡充	✓ 現状約	維持			今後の改革改善案								
□目的再				トワークの強化及 必要がある。	び安全・安心な通学確保の観点からも早期に供用開	コスト削減維持は			tin				
□ 休止・∫	ἷ止 □ 完了					_	向上		<u>лн</u>				
⑤改革改善案を実施する上で解決すべき課題							成果 維持	+ 0	7				
交付金等の財源確保のため、国や県への働きかけが必要である。								完了の場合は記入	不要)				

	令和	6	年度事業 事後評価(決算)	事務事業マネジメントシート	令和7年8月	作成
--	----	---	---------------	---------------	--------	----

ĺ	事業番号	事務事業	名	堂垣内広	也山	泉整備事業	整備事業				名	廷	建設部施設整備課 <mark>所属長名</mark> 古和 克司			
		方向性	1	くらしを守る	3				<mark>係・グループ名</mark> 工務第1係							
		重点施策	2	移動しやす	てく便	利なまちを	つくる		根	<mark>根拠法令等</mark> 道路法						
		施策方針	2	幹線道路	本系(り整備			基本事業							
Ī	7 M 1 0	会計	01	款	07	項	項 02 E		02	事業1	事業2	経·臨	予算上の事業名		名	
ı	予算科目	一般会詞	会計 土木費 道路橋りょう費 道路橋りょう新設					 良費	002	53	臨 道路整備事業(政策)					

1 事務事業の概要

①事業期間	②事業内容(事業概要を簡潔に記載。期間限定複数年度は全体の事業計画を記載)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
□ 単年度繰返し	**************************************	新機能都市開発事業に伴い、国道433号から 開発事業エリアを結ぶアクセス道路を整備し、
✓ 期間限定複数年度 (平成29 年度~ ^{令和8} 年度)	【事業概要】 整備延長:L=640m 幅員:14.0m(車道:7.0m、歩道7.0m)	道路ネットワークの強化を図るため、平成29年 度より事業に着手した。
□ 単年度のみ	令和6年度は、用地取得・補償・道路改良工事を行った。 	

□ 単年度のみ	17/10 / 12/00	,,,,,								
2 事務事業の対象・意図・活動	助·成果指標									-
主な活動内容		活動	指標(活動の規模)	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度
	\rightarrow	ア	 設計進捗率(事業費換算)	%	目標	100	100	100	100	100
設計業務(H29~R1)				70	実績	100	100	100		
用地取得(R1~)	\rightarrow	1	 用地取得率(事業費換算)	%	目標	82	95	100	100	100
7.3-2-14 ()			MARKET (4-3KRISSE)		実績	66	99	100		
道路工事(R4~)	\rightarrow	ゥ	 工事進捗率(事業費換算)	%	目標	25	51	63	82	100
		·			実績	16	25	72		
対象(誰、何を対象にしているの	りか)	対象	指標(対象の規模)	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度
					見込	-	-	-	-	-
[-		ア	道路利用者数	_	実績	-				
道路利用者	\downarrow	1			見込					
追陷作用名		-1			実績					
	\rightarrow	ゥ	ל		見込					
					実績					
意図(対象をどのような状態にした	(1)(Dt))	成里	指標(意図の達成度)	単位	区公	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度
志園(対象をこめような状態にした	0.00/3.7	八木		华 位	日標	54	73	82	91	100
	\rightarrow	ア	整備率(事業費換算)		実績	43	64	90		
		,			目標					
アクセス道路を完成させる	\rightarrow	イ			実績					
		ゥ			目標				-	
		')	/		実績					
杜里/杜松。/杜林《 春草》		1 hr 1 hr		14 / L	- A					0.44
結果(結びつく施策の意図は何	(ית	施策	の成果指標	単位	区分		5 年度	6 年度	7 年度	8 年度

都市間(広島市や大竹市など)や地域間 (廿日市・佐伯・大野・宮島地域)をス ムーズに移動できる →

	施策	の成果指標	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度
	٦	地域間の移動が円滑にできると思う	%	目標	77.5	77.5	78.0	78.0	
1	,	市民の割合		実績	67.5	64.8	60.3		
	,			目標					
1	1			宝績					

3 事務事業の予算・コスト概要

	年度	令和3年度決算	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算	前年度比	令和7年度(予算)		
Į.	事業費(A) (円) 394,295,495 31			442,421,201	553,249,880	110,828,679	743,500,000		
	国庫支出金	194,324,000	147,611,000	201,845,000	248,702,600	46,857,600	328,915,900		
財	県支出金					0			
源内	市債	183,600,000	135,500,000	181,500,000	223,700,000	42,200,000	297,900,000		
訳	その他特財					0	1,010,000		
	一般財源 16,371,495		29,461,267	59,076,201	80,847,280	21,771,079	115,674,100		
業務	孫延べ時間 (時間)	1,898	1,502	2,129	2,662	533			
	人件費(B)(円)	8,333,000	6,406,000	9,300,000	11,803,000	2,503,000	0		
-	ータルコスト(A+B)	402,628,495	318,978,267	451,721,201	565,052,880	113,331,679	743,500,000		
	主な	よ支出項目 かんしゅう	令和	日6年度(決算)	備考				
委託	料			5,135,900 円					
工事	費		47	75,033,200 円					
用地	費		4	12,571,780 円					
補償	費		3	80,509,000 円					

事業番号	事務事業名	堂垣内広池山線整備事業	所管課名	建設部施設整備課

4 事務事業の環境変化・住民意見等

① 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令 等)はどう変化しているか。開始時期あるいは5年 前と比べてどう変わったのか。	② この事務事業に関するこれまでの改革・改善の取り組み経緯	③ この事務事業に対して、関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が、どの程度寄せられているか。
国道433号等ヘアクセスする地区内の道路は狭 小幅員であり、周辺の住宅地の開発等により交通 量や歩行者の通行量が増加しているため、通学路 の安全確保が求められている。		新機能都市開発事業に併せ国道433号から開発事業エリアヘアクセスする道路の整備が求められている。また、通学路等の安全確保が求められている。

5 事業評価(令和 6 年度決算の評価)

5 ‡	尹未計画(卫州 0 千及次异)	い肝臓/				
目的妥当性評価	①政策体系との整合性(この事務事業の目的は市の政策体系に結びついているか。意図することが結果に結びついているか。)					
	□ 見直し余地がある	理由	第6次総合計画における「幹線道路体系の整備」として施策方針に位置付けられており、安全性、利便性の			
	☑ 結びついている	説明	向上に貢献している。			
	②市が関与する妥当性(この事業は市が行わなければならないものか。税金を投入して行うべき事業か。住民や地域民間等に任せることはできないか。)					
	□ 見直し余地がある	理由	道路管理者である市が実施すべき事業であり適切である。			
	☑ 妥当である	説明	追給官理有である印が実施すべき争未であり適切である。 			
	③対象・意図の妥当性(事務事業の現状や成果から考えて、対象と意図を見直す余地がないか。)					
	□ 見直し余地がある	理由	当路線の整備により、道路ネットワークの強化及び日常生活の安全性の向上を図るため、早期に整備を			
	☑ 適切である	説明	める必要がある。			
	④成果の向上余地(成果向上の余地はないか。成果を向上させる有効な手段はないか。何が原因で成果が向上しないのか。)					
	□ 向上余地がある	理由	早期の事業完了により、成果の向上が図られる。			
	☑ 目標水準に達している	説明	平朔の争末元 により、成末の円工が因られる。 			
有効	⑤廃止・休止の成果への影響	(事務事業	を廃止・休止した場合の影響の有無は。目的を達成するには、この事務事業以外に方法はないか。)			
対性評価	□ 影響がない	理由	 当地区を南北に横断するには、狭小幅員の市道しかなく、安全な歩行空間が確保されていない状況であ			
	✓ 影響がある	説明	り、幹線道路へアクセスする道路の整備及び日常生活の安全性の向上を図るにはこの事業以外ない。			
	⑥類似事業との統合や連携による改善余地(類似事業(市の事業に限らない)はないか。類似事業との統合や連携によって成果をより向上させることはできないか。)					
	□ 改善余地がある	理由	 事前の交通量調査など調査を行い必要最低限な道路構造で適切に設計しており、改善の余地はない。			
	☑ 改善余地がない	説明	予刊の大価単明且なと明日を刊い。必要取例故る追回特色と過剰に配引して35%、以音の示心はない。			
	⑦事業費の削減余地(成果を下げずに仕様や工法の見直し、住民の協力などで事業費を削減できないか。)					
効	□ 削減余地がある	理由	道路管理者である市が実施すべき事業である。事業は適切であり、コスト縮減の余地はない。			
率性	☑ 削減余地がない	説明	但時代在代でののログスルグ、です木でので、手木は処勢でのグ、コハド相談の木地はない。			
評	⑧人件費(延べ業務時間)の削減余地(成果を下げずにやり方の見直しや民間委託などでコスト削減できないか。)					
価	□ 削減余地がある	理由	必要最小限の人員により、事務を行っており削減の余地はない。			
	☑ 削減余地がない	説明	必要数小阪の八貝により、事物で11万にの7円減の赤地はない。			
公平	⑨受益機会・費用負担の適正化余地(事業内容が「対象」の全体でなく、一部の受益者に偏っていないか。受益者負担は公平・公正となっているか。)					
性評価	□ 見直し余地がある	理由	当路線の整備により、国道433号へのアクセス、新機能都市開発事業エリアを通り、宮島スマートインター チェンジ及び西広島バイパスへアクセスすることができ、道路ネットワークの強化が図られるため、受益の			
	☑ 公平・公正である	説明	機会は公平・公正である。			

6事	業評価の総	括と今後	後の方[性						
①上記の評価結果						②全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠				
Α	目的妥当性	Ė	✓ 適	л 🗆	見直しの余地有り					
В	有効性		✓ 適	л 🗆	改善の余地有り	F成29年度より事業に着手し、令和1年度に設計業務が完了、同年度より事業用地の用				
С	効率性		☑適	л	改善の余地有り	地取得に着手した。令和3年度から部分的に工事着手しており、早期に工事完了できる う事業を推進する。				
D	公平性		✓ 適	л 🗆	見直しの余地有り					
③今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可					④改2	革改善案による成果・コストの期待効果				
	拡充	✓ 現	状維持			今後の改革改善案				
	目的再設定	□改□完	_		外ワークの強化及 必要がある。	とび安全な歩行空間確保の観点からも早期に供用開		コスト 削減 維持 増加 向上		
⑤改革改善案を実施する上で解決すべき課題 交付金等の財源確保のため、国や県への働きかけが必要である。						(成果維持 〇 低下 原止・休止、完了の場合は記入不要)			